

地域医療 連携だより

Vol.4
2021 winter



多野藤岡医療事務市町村組合 公立藤岡総合病院 広報誌 地域医療連携だより 発行: 公立藤岡総合病院 経営管理部 企画財課

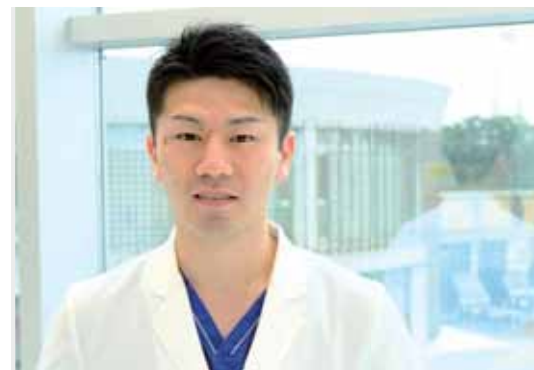
News

第15回 公立藤岡総合病院研修医症例発表会

令和2年12月11日に開催され、研修医1年次の7名が熱のこもった発表をしました。



- 今井 勝也** (名誉院長賞)
『当院での虫垂炎の治療に関する検討』(名誉院長賞)
- 小野 りさ子**
『再発難治性末梢性T細胞性リンパ腫に対してロミデプシンを使用した7例』
- 鈴木 美咲**
『左冠動脈全体に及ぶ特異性冠動脈解離(SCAD)から広範前壁心筋梗塞を発症し、血管内超音波検査(IVUS)と冠動脈専用カテーテルを用いて左前下行枝に再灌流療法を行った一例』
- 高橋 慶一郎**
『膵臓癌の化学療法中に発症したニューモシス肺炎の一例』
- 古市 望**
『肝動脈瘤破裂を繰り返した多発血管炎性肉芽腫症の一例』(優秀賞)
- 峰村 成**
『極度の偏食のためのビタミンD欠乏性くる病を発症した男児例』
- 吉田 源也**
『脳梗塞で発症した特異性頭蓋内頸動脈解離に対しステントによる血行再建を施行した一例』(名誉院長賞)



優秀賞 古市 望 Nozomi Furuichi

このような賞をいただき、率直に嬉しく思います。同期の研修医達にはそれぞれ尊敬すべき点があり、その中でこのように評価していただけたことは、ひとえに腎臓リウマチ内科先生方からの指導のおかげだと考えています。

この症例発表会を通して、毎日の診察でも細やかな所見を得ることの大切さを学びました。それを忘れずに今後の診療に当たることをここに誓い、受賞の挨拶とさせていただきます。

病院の理念 地域住民から信頼される医療

- 基本方針
- 1 患者さんの権利と意思を尊重し、患者本位の医療を提供します。
 - 2 地域中核病院として、救急医療、高度専門医療の充実に努めます。
 - 3 地域の医療・介護・保健機関と密接な連携を行います。
 - 4 次世代の医療従事者の教育・研修に貢献します。

特集

新年のご挨拶

地域医療の砦として急性期病院の使命を果たす
(整形外科)

TAKE FREE



新年のご挨拶

新しい年が始まりました。新型コロナウイルス感染症の蔓延で世の中は騒然としており、優雅に新年の祝意を述べるのも憚られる状況です。この感染症は過去一年の間に世界全体を大きく変えてしまい、医療機関もかつて経験したことのない激しい影響を受けています。コロナ感染はもはや市中感染症と化しつつあり、自分自身も含めてすべての人が感染症の潜伏期間中である可能性を意識して毎日過ごさなくてはなりません。職場だけでなく、私的な場面でも気を緩めることなく施設内感染の発生はなんとしても避けたいものです。感染指定病院として患者の対応に万全を期すと同時に、急性期医療の使命も堅持する必要があります。市民の受診行動が減退した結果、早期発見の機会を逸して重症化する病態が増加して行くことも予想され、課題は山積です。

混乱のさなかの新年ですが、医療関係者全員、そして地域住民の全員が、自身の健康管理と、職場の感染防止を図りながら、一日も早く平穏が回復することを祈念して年頭のご挨拶と致します。



病院長
塚田 義人
Yoshito Tsukada

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中での新年の幕開けですが、地域の皆様におかれましては、日頃よりご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

安全管理センターでは医療安全の推進、災害対策、感染制御に取り組んでおります。安全確保に向けた体制の整備や情報収集と検討を行い、医療事故防止、安全強化を図っております。また、近年では地震・豪雨・豪雪などの災害が頻繁に発生しており、災害拠点病院として大規模災害に対応できるよう、事業継続計画（BCP）を作成し訓練や備蓄等を行い医療体制の整備を進めております。

がん診療体制においても、質の高い、安全な医療が継続的に提供できるようチーム医療を推進し多職種が連携して診療にあたるよう努めてまいります。

本年も地域医療支援病院として、救急医療体制の整備、医療機器の共同利用等を通じて地域医療の充実を図り、病院の理念である「地域住民から信頼される医療」を目指し取り組んでまいりますので、変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



病院長補佐兼安全管理センター長
兼内視鏡センター長
設楽 芳範
Yoshinori Shitara

新年あけましておめでとうございます。日頃より当院の地域医療連携に格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当院は地域医療支援病院として、地域の病院や診療所などを後方支援するという形で、医療機関の役割分担と連携し地域に必要な医療を確保することが求められています。

医療連携（紹介率、逆紹介率）、救急医療の提供、医療機器の共同利用、地域の医療従事者に対する研修、退院調整部門の設置、地域医療連携バスの普及が求められています。

昨年度実績として、地域医療支援病院紹介率は61.2%、逆紹介率は90.8%、登録医は241医療機関265名でした。

新型コロナウイルス感染症により高齢者の新型コロナウイルス感染症患者さんの転院先の問題や、懇談会、講演会等が行いにくいという問題があります。当院で可能な診療内容の告知を含め、Webを使用した医療連携の方法を模索して行く方向で考えております。

今後も地域医療機関とより一層の連携を推進してまいりますので、ご協力をよろしくお願い致します。



副院長兼患者支援センター長
甲賀 英明
Hideaki Kouga

皆様におかれましては健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの影響により、2019ラグビーワールドカップを引き継ぎ盛り上げるはずの2019東京オリンピック・パラリンピックが延期され、各種イベントが中止に追い込まれました。この地域でも医療の第一線で活動する皆様と公立藤岡総合病院が行ってきた「藤岡多野医師会懇談会」、「本庄児玉地域連携懇談会」、「藤岡がんカンファレンス」、「藤岡がん市民講座」、「藤岡がん診療講演会」、「多野藤岡地域脳卒中講習会」、「藤岡ICLSコース」などを開催できませんでした。日々進歩する医療への取り組みの発信、診療の現状や意見交換、交流する場を持つ機会が著減してしま残念でした。

今年も、新型コロナウイルス感染が落ち着き、平穏で様々な会が安全に開催されることを祈念いたします。引き続き、安定した地域医療を提供するべく努力邁進いたします。



副院長兼研修管理センター長
清水 透
Toru Shimizu

明けましておめでとうございます。日々救急業務にご尽力いただきまして有り難うございます。

年明け早々明るい話題ではありませんが、ここに来て周辺地域でも新型コロナウイルス感染者が急激に増加しています。救急診療への影響が危惧されますが、今後の推移について見通しが立ちません。

当院は地域の救急医療に大きな役割を果たしております。さらに状況が悪化しても、できる限り救急医療を継続し、医療崩壊を防ぐ必要があります。当院だけでは対処しきれない事態も想定されます。救急隊、保健所、医師会、地域医療機関、行政等としっかり連携を取り、周辺地域の救急医療体制を維持していきたいと思っております。また、院内におきましても困難な局面を迎えるかも知れません。院内各部署と協力し、うまく乗り越えて行きたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症が諸外国のようにならず終息することを願います。難しい年になりますが、本年も宜しくお願い致します。



副院長兼救急センター長
井上 雅浩
Masahiro Inoue

地域医療の砦として 急性期病院の使命を果たす



医長
大沢 朝翔
Asuka Ohsawa

医員
市岡 健
Ken Ichioka

部長
中島 大輔
Daisuke Nakajima

医員
長島 泰斗
Taito Nagashima

医長
岡田 純幸
Junkoh Okada

医員
三森 江里
Eri Mitsumori

急性期病院としての機能を維持する為、病状安定後においても入院継続が必要な際には、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟への転棟、他の医療機関への転院加療などにご協力いただいております。

日本手外科学会認定 基幹研修施設としての教育

整形外科は多くの専門領域がありますが、当院では以前より手外科を専門とする医師が継続して常勤しているのが特徴であり、現在も私とその伝統を継承しております。また当院は2013年に日本手外科学会認定基幹研修施設の認定を頂きました。認定以降、手外科関連症例は増加傾向であり、現在では二次医療圏を超えた広い範囲から非常に多くの症例をご紹介頂けるようになりました。

希少症例やマイクロサージャリー手術が必要な症例、救済手術症例など専門性の高い症例が集まりますので、このような症例を通して研鑽を積み、学術活動などを積極的にを行い最新の知見を得ることで、新たな手外科専門医の養成や医療レベルの向上を目指しております。

2019年度手術件数675件(内緊急手術55件)

大腿骨近位部骨折	137件
膝関節周囲外傷	16件
足関節周囲外傷	33件
肩甲帯～上腕骨幹部外傷	21件
肘関節周囲外傷	25件(内小児肘外傷13件)
前腕骨幹部～手指外傷	126件(内橈骨遠位端骨折58件)
下肢切断術	8件
内シャント造設術	33件
腱鞘炎	22件
紋扼性神経障害	27件
緊急創外固定設置	10件

主要手術件数

地域の医療機関へのメッセージ

当院では地域医療支援病院として積極的に地域医療機関からのご紹介をいただいておりますが、整形外科に關しましてはまだまだ紹介率も低く、紹介状をお持ちでない患者様や、予約外で受診される患者さんが多いため、診療までに長い時間お待ち頂くことがございます。診察前の状況把握、待ち時間

整形外科の紹介

整形外科は現在常勤医6名と非常勤医2名で診療を行っております。診療対象としては、事故やスポーツ、転倒、転落などによる外傷、四肢の関節炎、脊椎に由来する疼痛やしびれ、骨軟部組織の腫瘍、四肢の先天性疾患などが対象となります。当科は群馬大学整形外科と連携し診療を行っておりますので、当院では対応が困難な患者さんに対しては、大学病院を中心とした専門の病院へ紹介して治療をお願いいたします。

当科では年間700件前後の手術を行っておりますが、骨折や軟部組織損傷などの外傷手術が多いのが当院の特徴であり、緊急手術も増加傾向であります。地域からご紹介頂き、顕微鏡を用いた手や前腕の神経、血管、腱損傷に対する手術、手の機能再建術なども行っております。

近年、骨粗鬆症を基盤とした高齢者の骨折が増加してきています。多くの合併症を有するいわゆるハイリスク症例の手術治療も増えてきており、他科と積極的に連携し全身状態を評価し、患者さん、そのご家族と治療方針を検討したうえで手術を行っております。

の短縮、診察時の精査をスムーズに行うためにも、紹介状の持参および患者支援センターを通しての診察予約につきご理解をお願い致します。

なお、外傷などで早急な対応が必要な患者さんに関しては、ご連絡を頂けましたら診療時間外におきましても救急外来にて対応いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

【文責 中島大輔】

